

【令和3年度 技術科授業改善推進プラン】 小平市立上水中学校

技術科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
材料加工、生物育成や情報基礎的な知識や技能を習得し、身近な生活の課題を主体的にとらえ、具体的な実践を通して、総合的に解決する技術を身に付けた生徒の育成

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	・授業に関心をもって取り組む生徒が多い。 ・ローマ字入力等のコンピュータの基本操作はスムーズにできる生徒が多い。 ・立体の表し方や作業など興味関心をもって授業に取り組む生徒が多い。 ・立体をイメージできない生徒がいる。 ・作業経験の少ない生徒がいる。	・コンピュータ操作の慣れによる差がある。 ・興味・関心をもって授業に取り組む生徒が多く、与えられた課題に対し真面目に取り組むことができる。 ・特にハンダ付け作業が初めてという生徒がほとんどである。	・少ない授業時間に、集中して取り組んでいる。 ・興味・関心をもって授業に取り組んでいるが、発言が少ない。 ・コンピュータ操作には慣れているが、プログラミングに不慣れた生徒が多い。
指導上の課題	・工具、機械の正しい使用方法を教え、安全かつ円滑に作業をさせる。 ・生活の中の技術を意識させる。 ・週1時間で指導内容も多く製作や作業も行うので、時間的な制約が大きい。 ・生活の中の技術の意識が低い。 ・生活の中の技術の意識が低い。	・工具の正しい使用方法や起こりうるけがを教え、安全かつ円滑に作業をさせる。 ・コンピュータ操作では、理解しやすいように、視覚的に伝える授業展開をしているが、分かった気になり、本来の作業を後回しにする傾向がある。 ・週1時間で指導内容も多く製作や作業も行うので、時間的な制約が大きい。 ・生活の中の技術の意識が低い。	・隔週の授業であるために基本的なスキルや知識の定着が乏しい。 ・コンピュータ操作では、理解しやすいように、視覚的に伝える授業展開をしているが、分かった気になり、本来の作業を後回しにする傾向がある。 ・プログラミングは学習内容の定着や発展的な学習が難しい。 ・進学、就職を意識させ、将来活用できる能力の育成が必要である。 ・生活の中の技術の意識が低い。

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	・実物に触れる機会を多くし、体験させ、技術と各家庭生活を考えさせる。 ・実生活との関連を十分意識して学習に取り組む。 ・「なぜ」、「どうして」を意識して学習に参加する。	・参考とする資料を用意し、安全に作業を進める。 ・ハンダ作業は特に安全に留意する。製作工程をイメージさせ、使用する工具など必要に応じて使用する。 ・生物育成の技術と生活や社会、身近な環境との関わりを理解させる。	・生活に活用できる技能を習得させるべく、コンピュータに多く触れさせる。 ・どのように働くプログラムであるのか、ゴールや課題意識をもって授業に取り組む。 ・機能と設備など、機械的な理解を進める。

指導面	・安全に作業を進めるために実際に作業して見せる。 ・正確にしかも速く作業することを常に意識させる。 ・大切な工具や部品の名称を正確に覚えるよう板書を工夫する。 ・コンピュータ操作の基本操作を繰り返し行うことで習得させる。 ・情報収集とモラルを正しく実践できる力を育めるよう行動させる。	・エネルギー変換が生活に密着していることを理解できるように教材を吟味する。 ・工夫して生物を育成する喜びを体験させ、収穫までの変化や日々の記録をさせる。 ・適切なソフトウェア選び操作することで情報処理に必要な技能を習得させる。 ・情報収集とモラルを正しく実践できる力を育めるよう、実践し行動させる。 ・技術と実生活の関わりを常に考えて、授業に参加する。	・コンピュータ操作の基本を習得させる。 ・隔週授業を補うためにプリントやパワポを用意する、また作業の予備演習を事前に行う。 ・完成を意識し、そこに向かう手立てを考え、適切なプログラムを模索する。そのための命令を伝え実行する。 ・情報収集とモラルを正しく実践できる力を育めるよう、実践し行動させる。
-----	--	--	---

評価

① 授業アンケート結果による達成度評価	②各学期の定期テストの結果	③保存された内容
④ 実習による技能の習得	⑤ワークシート等による実生活への発想及び展開	